



議案・説明要旨 五月二三日

第一号(理・評) 一九九四年度収支決算について (省略)

第二号(理・評) 一九九五年度収支予算(補正)について(省略)

第三号(理・評) 学園長の任期満了に伴う次期学園長の選任及び副学園長の選任について

次の者を選任した。

学園長 黒澤力太郎

(財)酪農育英会理事長

副学園長 山口 博

(酪農学園大学 北海道文理科短期大学 宗教主任)

第四号(理・評) 理事(学識経験者)の選任について

理事に次の者を選任した。

北海道農業協同組合中央会会長阿部忠男

(学)酪農学園学園長 牛島純一

雪印乳業(株)代表取締役社長 片山純男  
北海道大学名誉教授 崎浦誠治

雪印乳業(株)代表取締役会長 正野勝也

(有)町村農場代表取締役社長 町村末吉

第五号(理) 評議員(学識経験者)の推薦について

(評) 評議員(学識経験者)の選任について

評議員に次の者が推薦され、選任した。

北海道大学名誉教授 石塚喜明

(財)酪農学園後援会常務理事植田勝美

雪印乳業(株)取締役 温泉和也

北海道酪農協会会長 金川幹司

(学)酪農学園常務理事 菊池利治

日本酪農青年研究連盟委員長 小泉恒男

北海道酪農協会専務理事 小林道彦

北海道大学名誉教授 齋藤善一

雪印乳業(株)技術顧問 佐藤 巖

北海道農業開発公社監事 新谷富雄  
(学)酪農学園副理事長 高田哲夫

合同酒精(株)代表取締役社長田中時信

雪印乳業(株)常務取締役 種田泰典

土谷製作所(株)取締役会長 土谷長松

(財)酪農育英会監事 西本宗信

北海道大学名誉教授 廣瀬可恒

雪印食品(株)代表取締役社長藤井幸昭

酪農学園大学名誉教授 松井幸夫

北海道獣医師会会長 三宅 勝

酪農学園大学教授 安田 勲

前酪農学園大学宗教主任・教授山畑勝美

(学)酪農学園理事長 遊佐孝五

雪印乳業(株)取締役副社長 湯山莊平

第六号(理) 評議員(職員互選者、同窓会推薦者)の選任について

同窓会推薦者)の選任について

評議員(職員互選者)に次の者を選任した。

安宅一夫 市川 治 伊藤茂生

浦川利幸 太田一男 大谷俊昭

小野愷弘 梶原興正 加藤 勲

佐々木均 佐々木淳 鮫島邦彦

柴橋伴夫 志摩親壽 網島彰男

中尾敏彦 中原准一 平賀武夫

評議員(同窓会推薦者)に次の者を選任した。

(学)酪農学園理事長 遊佐孝五

(学)酪農学園副理事長 石田貞夫

(学)酪農学園副理事長 野村 武

(学)酪農学園副理事長 土田孝幸

北海道文理科短期大学

市川 舜 高橋節郎  
酪農学園機農高 齊藤義孝 中井保博

とわの森三愛高校 山崎恵子 横山初恵

酪農学園短期大学酪農学校森田正夫

酪農義塾 船木長一郎

酪農学園短期大学酪農学校森田正夫

酪農義塾 船木長一郎

第六号(評) 名誉理事長の委嘱に

第七号(理) について

名誉理事長に次の者を委嘱した。

(学)酪農学園名誉理事長 佐藤 貢

第七号(評) 顧問の委嘱について

第八号(理) 顧問に次の者を委嘱した。

元北海道知事 堂垣内尚弘

元江別市長 岡 英雄

元江別市長 山田利雄

(新) 評議員会議案・説明要旨

第一号 評議員より選出する理事

の互選について

理事に次の者を選出した。

大学同窓会校友会会長 石田貞夫

酪農学園大学教授 大谷俊昭

(学)酪農学園常務理事 菊池利治

酪農学園同窓会連合会会長 高橋節郎

大学同窓会校友会副会長 野村 武

(学)酪農学園理事長 遊佐孝五

第二号 監事の選任について

監事に次の者を選任した。

(財)酪農育英会監事 青山義人  
江別市議会議長 高倉勝孝

(新) 理事会議案・説明要旨

第一号 理事長、副理事長、常務

理事の選出について

次の者を選出した。

理事長 遊佐孝五

副理事長 平尾和義

常務理事 菊池利治

議案・説明要旨 三月二七日

第一号(理・評) 事務組織の変更

に係る酪農学園大学学則の一部

改正について (省略)

第二号(理・評) 事務組織の変更

に係る北海道文理科短期大学学

則の一部改正について(省略)

第三号(理・評) 酪農学園大学酪農

学部獣医学科の獣医学部獣医学

科への改組転換について(省略)

第四号(理・評) 酪農学園大学獣医

学部獣医学科の設置に係る寄附

行為の一部改正について(省略)

第五号(理・評) 酪農学園大学獣

医学部獣医学科の設置に係る酪

農学園大学学則の一部改正につ

いて (省略)

第六号(理・評) 一九九五年度収支

予算について (省略)

叙勲に輝く

勲三等旭日中綬章

酪農学園評議員 三宅 勝先生

酪農学園評議員 寺田一壽男先生

去る四月二十九日の春の叙勲にお

いて、本学園評議員三宅 勝先生

は、多年にわたり高等教育の発展

に尽されたこと、寺田一壽男先生

は、多年にわたり地方自治の発展

に尽されたことにより、両先生は

勲三等旭日中綬章の荣誉に輝かれ

ました。本学園におきましても、

このうえない名誉であり慶びであ

ります。

両先生のご荣誉を讃えると共に

今後益々のご健勝とご活躍を祈念

しお祝い申し上げます。

## 就任「あいち」

酪農学園長



黒澤力太郎

このたび、学園長選任の栄を受けました。当初、理事長よりお話しがあった時は、心身ともに老化現象のはげしい昨今を思い、固辞し続けて参りましたが、学園設立当初の同労の勧めもあって、意を決した次第です。

七〇才で学園を辞して、すでに七年を経過し、浦島太郎の感が無きにしもの憶いですが、昭和一八年以来学園に係りて来た小生に取って、ここ数年間の学園の発展は、正に驚異的なものを感じております。

酪農義塾の教育を拡大すべく、現在地に興農義塾野幌機農学校(甲種農学校)を開校したのが、一九四二(昭一七)年六月で生徒数一二〇名。五〇余年後の現在、同じキャンパスに学ぶ学生、生徒数五、一一四名を数えます。

酪農学園の同窓生始め、暖かいご後援を頂いております関係各位に心から感謝と御礼を申し上げ、就任のご挨拶といたします。

とわの森三愛高等学校長



村山 昭二

本年四月、とわの森三愛高等学校長に就任いたしました。微力ではありますが、全力を上げてこの重責を全うしたいと念願しております。建学の理念を基本として、酪農経営科、普通科、英語科の充実発展に尽力を傾注したいと決意しております。

しかし、札幌地区におきましても一五歳人口の急減が進み、更に、酪農家戸数も五万户を割っている状況等、本校を取り巻く環境は非常に厳しい状況にまかれています。

幸いなことに、本年度の入学生が五百名も与えられ、しかも、一五万都市を目指す江別市の中学校卒者数は増加の傾向にあります。地域に信頼され期待される特色ある教育活動を進めて行く所存であります。先の理事会・評議員会において、校舎増設計画が承認されましたので、これを弾みにして、新カリキュラムの対応はじめ酪農経営

科の実験実習施設等の移設についても実施して行きたいと考えています。今後とも、御指導、御協力の程をお願い申し上げます。

## 退任「あいち」

前酪農学園長



牛島 純一

この度、私は六月三〇日を以て、任期満了により学園長の任を退かせて戴きました。顧みますと、一九四七年に、黒澤西蔵先生に呼び集められ、学園の新たな高等教育計画の教員の一人として働かせて頂くことになりました。

以来四七年間、短期大学の開設、大学の開設や学科の増設のほか、その充実発展計画をお手伝いさせて頂きました。

現在の学園の充実状況を見るにつけ、今迄の困難や苦労は、夢の中の出来事のようにさえ思われます。

この間、御指導賜った佐藤貢先生はじめ、役職員の先生方、並びに御協力下さった教職員の皆様に心より感謝申し上げます。

我が学園には、日々の教育に研究に直ちに生かされる素晴らしい建学の精神が与えられています。

どうぞ今後も特色ある教育研究を永遠に守り続けて下さるようお願い申し上げます。退任のご挨拶といたします。

前とわの森三愛高等学校長



井上 昌保

本年三月末日をもって、とわの森三愛高等学校の校長を退任し、四月から酪農学園大学に教授として復帰させて頂きました。

一三年近い在任中は、まず道教委の当初計画にもなかった大麻高校の新設問題に始まり、英語科の増設、一連の教育改革、男女共学から学校統合、そして財政健全化の取組み等々と、まさに波瀾万丈と言っても過言ではないほど、課題の多い時期でした。

幸い、職員が献身的にこの難問に取り組んでくれました。学校躍進の基盤ができたことは、何にも勝るよるこびで、感謝にたえません。もちろん学園内外の多くの方々から、数々の暖かいご指導ご支援を賜りました。まことに有難く心からの御礼を申し上げます。

大学は、今や自己点検・自己評価の時代になって、研究・教育両面で自己研鑽が問われております。微力ながら努力する所存ですので、今後とも旧に倍するご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

御指導、御協力の程をお願い申し上げます。

# 国際交流について

## 酪農学園大学

### エクステンション・センター

酪農学園大学エクステンションセンターは、情報誌酪農ジャーナルの発行、酪農および近隣市民向け各種公開講座の開催、企業や団体からの委託研究の取扱い、そして国際交流を主要な業務として、一九八八年に発足した。

この時期でのセンターの所管になるいわゆる国際交流は、学術交流協定大学二校、海外留学教員は短期を含めて五名、海外受け入れ研究員は二名ほどであった。

発足七年後の本年度初頭においては、学術交流協定大学は九校(アルバーター州立大学農学部、内モンゴ農牧学院、オハイオ州立大学獣医学部・農学部、コーネル大学畜産学科、内モンゴ哲里木畜牧学院、フィリッピン大学ロス・バーニョス校、ワルシヤワ農業大学、韓国安城産業大学校、デンマーク国立畜産研究所)となり、海外留学教員は七名、受け入れ研究員は九名であつて、特に学術交流大学は大きく増加し、急速な国際化の進展をうかがわせている。

つぎに、海外からの受け入れ研究員について、従来の主な派遣機関は学術交流協定にもとづくもの、JICA(国際協力事業団)、OISCA(オイスカ産業開発協力団)、私立大学協会などであつたが、二年前から外国政府の派遣によるもの、および日本獣医師会研修事業によるものが新たに加わつた。

国別では、エジプト二名、中国三名、韓国、タイ、フィリッピン各一名など交流の一層の拡がりを示している。海外留学についても、従来は学術交流協定大学への志向が主流であつたが、本年は留学教員七名のうち、四名はいずれもヨーロッパおよび米国各地の交流協定外の大学であり、交流の多様化も併せて進行しているとみることができよう。

また、交流内容も本年は留学などの領域を超えて、学術の実際の相互交流が実施された。すなわち、この四月初旬、日比学術セミナーがフィリッピン大学ロス・バーニョス校で開催され、本学からは獣医学科中尾教授をはじめ、森田教授、福本、永

幡両助教授が発表を行い、フィリッピン全土より一〇〇余名の出席を得て、極めて盛会、有意義に終了したと報告されている。

さらに、センターの所管以外のものとして、アジア酪農交流会(会長原田教授)や二〇余年の歴史を経た北海道アルバーター酪農科学技術交流協会においても地道な努力が続けられていることを忘れてはならない。

## 就職状況

景気の低迷は、就職戦線を「土砂降り」から「超氷河期」へと言う厳しい環境へ学生を追い込んでいます。

### 大学

就職希望者の内九三・七割の決定をみ、学生諸君の健闘と関連企業に対し深く感謝している。しかし、男子に対し女子の決定率が四・五ポイント下まわっており、厳しい状況となっている。

**短期大学**

就職希望者の内八九・一割の決定となり善戦はしているが大学より更に厳しい状況にある。ちなみに女子は男子より二・三ポイント下まわつた。

### 高校

就職希望者八五名の内、五七名が決定した。学校幹旋希望生に対する決定率は、男子一〇〇割、女子は九六・五割と、それぞれ全道平均を上回つた。全卒業生に対する割合も一七・五割と過去最低となり、進学志向がより高まつた。

## 入試状況

志願者数は、昨年比一割の減少

であつた。昨年新設の食品流通学科は五五割増加したが他は獣医学科を除き減少となつた。

**短期大学**

志願者数は教養学科、経営情報学科で大幅に減少し、短大全体として二一・六割減となつた。

**高校**

本校の特色ある教育活動に期待が高まり、年々応募者が増加傾向にある。特に江別地区より入学者が増加していることが特長である。

1994年度 卒業者の進路状況

区分		大学	大学院	短大	高校
農業関係	自営	48		36	7
	農業団体	10		5	3
農業以外の自営		7		2	
公務員関係		43		5	
教育関係		17			
医療関係				5	7
製造業関係		83	3	24	9
卸・小売業関係		92		56	27
建設関係		5		10	1
金融・保険関係		9		12	
運輸・通信		11		4	3
その他サービス業		102		39	
上記以外のもの		46	2	50	
進学		32	2	50	213
無職		104	1	74	45
未定・不詳		4			5
計		613	8	372	320

(1995.5.1)

1995年度 入試状況

区分		志願者	入学者
大学	酪農	1,010	175
	農業経済	623	140
	獣医	2,964	151
	食品科学	835	118
	食品流通	679	92
	計	6,111	676
大学院	獣医(博)	8	7
	酪農	39	16
	修博	3	3
計		50	26
短大	酪農	358	164
	教養	237	106
	経営情報	357	139
	計	952	409
高校	普通	1,260	443
	英語	88	32
	酪農経営	37	26
	計	1,385	501

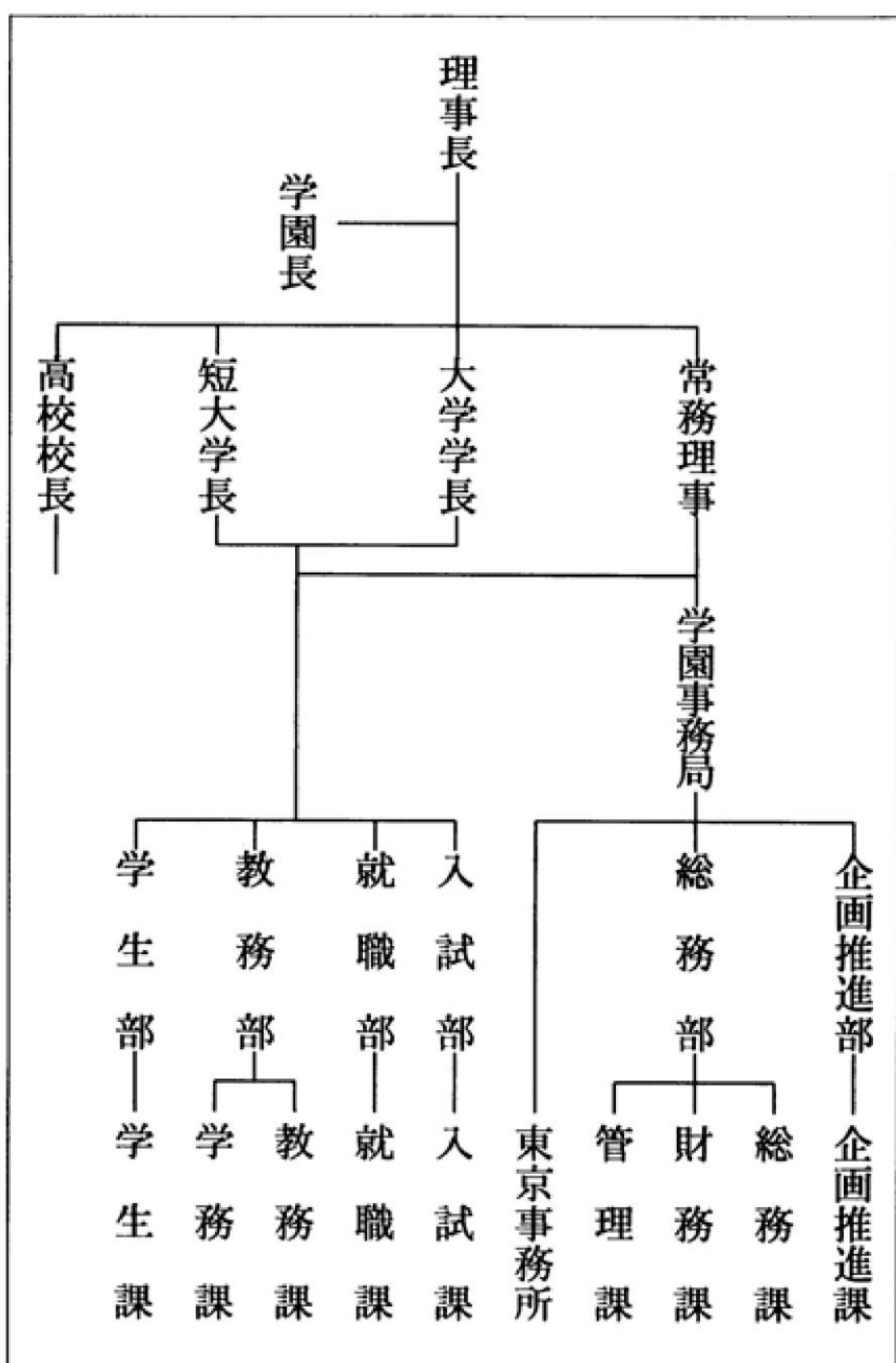
(1995.5.1)

# 酪農学園事務組織の一部変更

社会・教育・時代の価値観・要請・構造の変化変革が進行する中で、学園の将来計画・構想の推進に対応するため、事務機構・組織等の一部についての改善・改革を実施した。

組織変更は、二段階に分けて実施され、先ず昨年一〇月に大学・短期大学と学園事務局の業務関係事務を統合し、次いで去る四月に大学・短期大学の学務関係事務の改組を行なった。

改組後の組織(変更部分のみ)は、次のとおりである。



## 人事発令

### 酪農学園大学

◇新任(九五・四・一)

教授 干場信司

教授 松中照夫

助教授 矢吹哲夫

講師 尾碕亨

講師 深澤史樹

◇昇任(九五・四・一)

助教授(講師) 浅川満彦

教授 森田茂

講師(助手) 山下和人

助教授 義平大樹

講師 〃

教授 新井健一

◇新任(九五・四・一)

教授 石橋紀彦

教授 大中隆

教授 辻佳江

教授 上野伸

教授 佐藤一義

教授 西川求

◇新任(九五・三・三一)

教授 斎藤瞭

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

◇新任(九五・三・三一)

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 今岡久人

教授 片桐誠士

教授 齋藤善一

教授 J・D・ウィルアムス

教授 山下昭芳

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

◆退任(九五・三・三一)

教授 原国夫

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

教授 〃

局長から学園の現況等についての説明が行われた。

夕刻からは短い時間ではあったが、図書館、乳製品実習室等の施設見学を行い、丸一日の日程を終了した。

## 学園行事日程(三〜五月)

三月一日 高校卒業式

一五 短大卒業証書授与式

大学院・大学学位記授与式

与式

二三 学内理事・評議員懇談会

二五 定年退職者慰労会

二七 理事会・評議員会

二八 校長離任・就任式

三一 棚卸検査

四月五日 新任職員オリエンテーション

七 高校入学式

一〇 短大入学式

大学院・大学入学式

一七〜二一 公認会計士期末

監査

五月六日 高校開校記念日

一〇〜一二 監事期末監査

一八 学内理事・評議員懇談会

二二 酪農学園教育委員会

二三 理事会・評議員会

〃

とわの森三愛高等学校

◇新任(九五・四・一)

教授 石橋紀彦

教授 大中隆

教授 辻佳江

教授 上野伸

教授 佐藤一義

教授 西川求

教授 〃

受付後、山口 博宗教主任(大

学・短大)の司式による開会礼拝

が九時三〇分から行われ、参加者

一人一人に遊佐孝五理事長より聖

書の贈呈が行われた。

引続き、理事長より本学園の歴

史と使命を含めオリエンテーショ

ン開催についての挨拶がなされた

後、牛島純一学園長をはじめ各部

## 大学院酪農学研究科のあゆみ

## フードシステム専攻増設

大学は激しい変化と流動的しかも不透明なこれからの時代に、新たな展開に対応し得る能力を持った人材を育成することが期待されている。また、近年の学術研究の進展や急速な技術革新、国際化、情報化や社会経済および構造の複雑化に対応するために、創造的・先駆的研究を推進できる優れた研究者と高度な専門的知識と能力を持つ指導者養成が急務となり、大学院への期待が高まってきた。

同時に、大学院の整備充実の必要性が指摘されている。特に問題になる点の一つは、わが国のほとんどの大学院の規模が先進諸国のそれに比べて小さいことである。例えば、人口千人あたりの大学院生数は日本では一人、フランスで三人、イギリス二・四人、アメリカ七・三人となっている。

このような時代の要請から、本学では一九八一年に酪農学研究科酪農学専攻修士課程を設置し、一九九一年には同研究科に食生産利

## 用科学専攻博士課程を増設した。

修士課程は開設以来一四年を経過し、すでに修了者は中堅指導者として多分野にわたって活躍している。博士課程は昨年完成年度を迎え、課程修了の博士(農学)号取得者を輩出することができた。また、昨年は、論文提出による博士の学位取得のための申請があり、審査の結果博士号が授与された。

現在、酪農学専攻には二三名(収容定員一二名)、食生産利用科学専攻には七名(収容定員六名、内一名は留学生)の院生が在学している。このような着実な歩みをしてきた本研究科は、酪農学部

に食生産利用科学科が設置(一九八八年)されたのを契機に時代を先取りする新たな専攻の創設を目指し、検討を開始した。その後、一九九二年には理事会を中心に教育財務中期計画が策定され、それに基づき、一九九四年に食品流通学科が新設され、食の生産から消費までの一連の流れを網羅した学部の教育体制がほぼ完成したのである。

あらゆる食品の流通機構にみられる複雑さと国際化、国民生活の多様化、経済機構の肥大化と急速な変化は、農業生産と食生活との関連をそれぞれ単独の問題として取りあげてきた従来型の食料問題解決法では最近起きてきている食をめぐる様々な問題に対処しきれなくなっている。すなわち、食料・食品

に関わる全体の流れ(生産から供給・消費までの食料品供給体系)

始められた。募集期間は十分でなかったが、八名(一名は留学生、定員六名)の入学を認めることができた。フードシステム専攻は、食品機能システム、食品開発システム、食料政策システムの三つの大講座からなり、一六名の教員が担当することになっている。なお本専攻では教員免許の理科と農業の専修免許も取得できるようになっている。

本学のさらなる発展を目指して大学や大学院に関わるスタッフ全員が大学院教育に期待される役割をしっかりと見定め、一層研究活動の活発化と発展に不断の努力をしなければならないことは当然のことであるが、将来の社会的ニーズに即応できるように研究科全体の質的あるいは量的な整備充実が必要であると考えられる。それには、まず研究科全体の教員組織や施設設備・教育研究内容の質的・量的充実を図ることがあげられる。次に、優秀な大学院学生や



▲大学院で研究中の留学生

## 1996年度 大学・短期大学入試要項

## 9月下旬配布予定(送料共1200円)

本学同窓生は、卒業学校・学科(高校含)及び卒業期(年度)を明記のうえ、請求して下さい。無料で送付します。

入試に関する問合せは、入試部入試課へ。

☎ 011-386-1111 (内2045~2047)

FAX 011-386-1214

を総合的かつ学際的に解明することが必要となった。これらの境界領域あるいは複合領域について広い視野に立ち、精深な知識と高度な技術を持った人材を育成するために酪農学研究科に新たに「フードシステム専攻」修士課程の増設が計画されたのである。今年三月

に本専攻は認可され、早速募集が

若手研究者を育成、確保するための支援体制が確立されることである。さらには、今後増加が見込まれる留学生への教育・研究指導体制の強化と支援事業の整備も重要な課題の一つとなろう。また、これからの社会的需要に的確にこたえることのできる教育研究内容の変革と社会人の再教育機関としての整備も今後速やかに検討しなければならない。研究科におけるこれらの質的・量的充実のためにはかなりの財政基盤が必要とされ、国内外の他大学と、あるいは他の研究機関との実効のある協力体制も必要となってくるものと考えられる。

夢と期待にあふれ

新年度の諸活動が

スタート

◎年度聖句

「あなたがたは神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されているので、すから、憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身につけなさい」  
(コロサイの信徒への手紙)

この聖句のもつ意味を学びつつ、生徒・教職員共々、新年度の計画が推進される。

◎五〇一名の新入生を迎えて、四月七日、本校礼拝堂において、多くの来賓・父母共々の参列を得、入学式が行われた。

◎生徒会は、四月二二日に新入生歓迎会を行い、各クラブ活動の紹介を行った、恒例になっている一学年担任の先生方による出し物は、楽しい笑いの中に、親近感を増し、大好評であった。

二八日には、本年度の学校祭企画案を考える学年委員会合宿を行い、熱心な討論を通して創造的な学校祭づくりのための連帯をかためた。

◎酪農経営科は、農業クラブの年次総会を二五日行い、会長に、川瀬君を選出し、新事業計画を承認し、新たな活動がスタートした。

◎酪農学園大学・北海道文理科短大の説明会が、四月二七日に開催、五月一日の就職関係の父母三者懇を皮切りに、講習・合宿と厳しい進路開拓のために、連日の特訓が続いている。

高校バレー予選会優勝  
初の全国大会



▶全国大会にて健闘したメンバー

「若さでアタック!!春の高校バレー」全国高等学校バレーボール選抜優勝大会への出場権を獲得した。

大会参加に際し激励をはじめ多くの応援を戴き予想以上の反況に驚きを隠せませんでした。万全を尽くし三月二〇日の開会式・試合に臨んだ。当日は時ならぬサリオン事件に遭遇したが、運よく難を免れ晴れの代々木体育館に立ち感動の開会式を迎えた。当日の第八試合で千葉県代表の市立船橋高校と対戦したが、選手は硬くなつてしまい半分力も出せないままの完敗で、これが全国大会の恐さかと感じた。全国大会には二度と出られないと思っていたが、後悔が残る参加だっただけに、もっと「力」をつけて、「また来たい」と新たな目標もでき、大変勉強になった大会でした。本当に心よりの応援に対し感謝申し上げます。

思い出の  
アメリカ研修旅行

三年九組 小林里美

三月一日、私達三年九組はアメリカ西海岸へ向かって出発し、それぞれの心を思い出と経験でいっぱいにして貴重な二週間を過ごし、

三月一五日無事日本へ帰ってくる事ができました。

たくさん思い出の中でも一番心に残っているのがホームステイです。グレシヤム高校へ行き、授業に参加し、パーティをしたりと



▶アメリカ研修旅行の一コマ

本場のアメリカの同年代の高校生との貴重な時間を過ごせました。そして彼らの「何に対しても熱心に、積極的に行動する」という気持ちに感心しています。思っていた以上の感動と喜びを味わい、自分の英語の目標も確認できて、本当に満足しています。

一学期の行事日程

- ・学校祭は七月七・八・九日の三日間例年規模で開かれる予定
- ・夏季休暇は七月二五日より八月一八日まで
- ・酪農経営科の委託実習は、七月一二日より七月三一日までの間に行われます。
- ・地区PTAは、道外は、例年通り、七月二九日より東北地区・関東地区・西日本地区の三ヶ所で行われます。道内は、道東地区・網走地区・日高地区などで行われます。

酪農経営科とは?

大自然に囲まれた北海道で、動物が好き、酪農学園大学や北海道文理科短大に進学したい等の夢のある中学生への進学相談会を開きます。  
・8月1日(火) 10時より14時まで  
※ 東京ガーデンパレス  
東京都文京区湯島1-7 ☎(03) 3813-6211  
尚、その他の地区は高校入試係に問合せ下さい。  
☎(011) 386-3111 FAX386-1243

# 同窓会だより

## ◇同窓会連合会総会

五月二三日、札幌・ガーデンパレスにおいて、九五年度理事・評議員、幹事による総会を開催。

高橋会長の開会挨拶後、議事に入り第一号議案く第四号議案を審議した。今年役員改選があり、山崎新副会長外、五名を新任し、他は再任として承認した。

その他の提案事項では(財)酪農学園後援会の同窓同窓生会館への移転を承認した。議事終了後退任及び新役員を紹介し、予定通り終了した。



▲同窓会連合会理事会・評議員会

## ◇根室支部総会

去る十一月二六日、中標津町に

おいて、牛島学園長、高橋会長、

木村事務局長が出席「支部の現況と今後のあり方」を学習討議し組織の見直し、活動の在り方等について意見交流と統一を図った。

## 三愛女子高校同窓会

### 三愛会に名称変更

六月二三日、札幌・ガーデンパレスにおいて、三愛女子高校同窓会総会を開催した。総会では三愛女子高校同窓会の名称を「三愛会」と変更することが承認され、会長

に山崎恵子さん(六期生)が就任した。続いて二期卒同期一〇〇名を超える参加により、恩師との全体学習と交流が図られ有意義であった。

来年は「一三期卒同期会」を開催致します。

※名簿作成致します、ご協力下さい。

## 統一地方選挙

### の当選を祝す

第一三回統一地方選において、本学出身同窓生の、次の方々が当選されました。ご当選を祝し今後のご活躍をご祈念致します。

## ○道議会議員

神本三也氏(十勝支庁管内)・機農高

## ○市町村長

土幌町長・小川寅之助氏・機農高

奈井江町長・北良治氏・機農高

(注:二名の方は地方選前の二月選で当選)

標茶町長・千葉 健氏・短大

石川県島屋町長・長尾二氏・大酪農

## ○市・町・村会議員

高倉勝孝氏・江別市・機農高

森田正夫氏・江別市・酪農学校

東野義弘氏・恵庭市・短大

小田部善治氏・網走市・大酪農

黒沢一喜氏・砂川市・機農高

橋本 博氏・広島町・短大

工藤 孝氏・浜中町・機農高

大谷正男氏・石狩町・機農高

田畑富美男氏・当別町・酪農学校

進藤完樹氏・新篠津村・機農高

厚海六郎氏・東藻琴村・機農高

岸本源正氏・東神楽町・機農高

## 大学OB故・林大作氏の

### 写真集出版と遺作写真展

大学写真部で活躍し、平成四年七月に他界された動物写真家林大作氏の写真集が刊行され、写真展が左記において開催されます。

期日 平成七年八月三日〜二日まで

場所 パルコ・デュエ8F・スペース・デュエ

札幌市中央区南一条西三丁目パルコ南側

『北海道の野鳥』(予価三〇〇円)平凡社

菅沼義一氏・短大

嵯城和夫氏・美瑛町・機農高

太田 博氏・東川町・機農高

大谷理男氏・鶴居村・機農高

松井宏志氏・機農高

滝沢義一氏・機農高

(記載洩れの場合はお許し下さい。なお、お気付きの方は、事務局に一報下さい)

## 貴農同志会だより

### ★事務局からのお願い★

終身会費をお納め頂いていない方につきましては、次の口座にご送金方お願い致します。

北海道拓殖銀行・江別支店

(普通口座) 三〇九一三九七

貴農同志会会長 山下正亮

## 酪農育英会だより

### 平成六年度事業報告

### ☆奨学金貸与

大学院生三名 一、八〇〇千円

大学生四四名 一六、九三二千円

短期大学生八名 三、三六〇千円

高校生一名 一、九八〇千円

計六六名 二四、〇七二千円

### ☆研究奨励金

山下和人(大学講師) 三〇〇千円

日本酪農青年研究連盟 一〇〇千円

☆私費留學生奨学金給与

アジアからの私費留學生 六名

海外で学ぶ邦人私費留學生 一名

計七名 四、二〇〇千円

平成七年度事業計画

☆奨学金貸与

大学院生 月額五〇千円

大学生 月額三五千円

短期大学生 月額三五千円

高校生 月額一五千円

総額 二一、九六〇千円

☆私費留學生奨学金 計七名

総額 三、九〇〇千円

☆研究奨励金

個人 三〇〇千円

団体 一〇〇千円

# 酪農ジャーナル

酪農学園大学 EX版  
エクステンションセンター

本学在學生およびご父母、同窓生向けに、在學生の様子や同窓生等からのメッセージを本誌にドッキングさせた酪農ジャーナルEX版を発行しております。ぜひご購読下さい。

〒069 北海道江別市文京台緑町582  
☎011(386)1116 FAX011(387)2805  
年間購読料13,070円(送料含む)  
A4型変形、92ページ